

『オリコンサル・東芝 コミュニティバスをEV化 環境省 実証研究事業に採択』

オリコンサル・東芝

コミュニティバスをEV化

環境省 実証研究事業に採択 ソリューションの検証行う

オリエンタルコンサルタンツと東芝は、既往のコミュニティバスを「EV化する」実証事業に取り組み、環境省の「12年度地球温暖化対策技術開発・実証研究事業」に応募し、採択された。実証事業では、東京都港区で運行している、コミュニティバス「ちいばす」の路線を活用して、東芝が開発した二次電池「SCiB」、定置用蓄電池「スマートバッテリー」と、オリエンタルコンサルタンツが検討、構築する交通運用プランなどにより、バス事業者が導入しやすいEVバスのソリューションの検証を行う。実施期間は12～14年度までの3か年を予定している。

環境省の「12年度地球温暖化対策技術開発・実証研究事業」は、早期に実用化が必要かつ可能なエネルギー起源二酸化炭素の排出を抑制する技術の開発および実証研究について、民間企業等からの提案を募集し、外部専門家からなる評価委員会で選定した事業を委託するもの。

オリエンタルコンサルタンツでは、公共交通の弱体化、住民等の公平なモビリティを確保できないこと、さらに地球温暖化対策の必要性など、複雑化する「モビリティ」の問題を「スマートコミュニティ」の実現に向けた課題の1つとして、解決に取り組

み、実社会への具体的な貢献に努める。

特に、①低炭素型公共交通の普及を図るためのEV等の技術特性に合わせた交通運用プランの構築②低炭素型公共交通を円滑かつ効果的に運用するための道路などの都市空間設計、インフラ建設③低炭素型公共交通の持続性を高めるための公共交通の優遇や良好な資源循環等の制度設計——などに着眼し、優れた技術を保有する異業種企業等との連携を深めながら、国内外での交通ソリューション事業、スマートコミュニティ創造事業の拡大を図っていく。